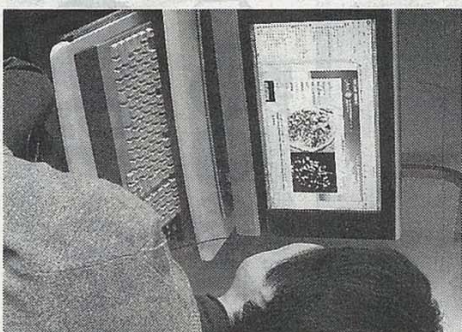


難病

不安と決断④

仲間とのやりとりが支えに

18歳腎症の治療のため、仙台社会保険病
院で扁桃の摘出手術とスロイドの点滴を受
けた仙台市の唐沢洋子さん(50)＝仮名＝は、
07年10月上旬に退院した。
退院の時、尿たんぱくは検出されなくなっ
ていたが、尿潜血は入院当初の程度は減っ
たものの、まだ陽性だった。
「退院後は半年ほどスロイドの飲み薬を
飲むことになりました。潜血の戻りは多少上
下しながらも、治っていきましょ」
入院中から担当医師に言われてはいた。し
かし、尿潜血がみつかって4年もたつてから
の治療だった。
定期検査が気になる日が続いた。
職場に復帰すると、同僚たちが「もう大丈夫
なの？」と声をかけてくれた。
一方で、「腎臓病って治らないでしょ」
と言っ人もいて、落ち込んだ。
そんなとき、入院中に知り合った同じ腎病
の仲間とのメール交換が励みになった。
隣の病室だった女性とは、検査や薬、仕事
のことなどを何度もやりとりした。潜血区
が「+」から「+」になった。スロイド
が1錠減った……。そんな微妙な違いをわか
り合えるのが、うれしかった。
女性も手術後も血尿が出て不安になり、
一足先に退院した唐沢さんにメールしてきた
こともあった。「私も直後は尿中の赤血球が
増え、その後は減っていったよ」。携帯に打
ち込みながら治療を振り返ることが、気持ち
の整理になり、回復への励みになった。
12月には潜血が消えた。スロイドも徐々
に減って、翌年も月には必要なくなった。
8月には、木村朋由院長から尿たんぱくはく
も尿潜血も認められず、症状が安定した「寛
解」になった、と告げられた。仙台内科総合
クリニックに通い、2か月に1回検査を受け
ればいいことになった。
「これで終わった」
うれしかったが、再発の不安もあった。治
療開始までの遅れが、こころも寂しかった。
「でも、心配ばかりしていても、何も変
わらない」。忙しくて、体調を崩した経験か
ら、仕事をわかり、自分のペースでできるよ
うにした。週末はめぐり過ごす。
夕方、自宅から買い物先まで約30分歩
く。「みんな色々お話を抱えているんだらう
な。あれ達の人を見て、そう感じられる目
分があることに気づいた。」(本多昭彦)



いまも病気の情報に
目を通す＝仙台市

■ご意見・体験は、<メール> iryo-k@asahi.comへ。